様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年６月１３日現在

機関番号：22301
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2012
課題番号：22730311
研究課題名（和文）　日本の中堅・中小企業の成長モデルの解明―グローバル競争・産業成熟化時代の競争優位
研究課題名（英文）　A Study on the Growth of Japanese Small and Medium-sized Company : A Competitive Advantage in the Global Competition and Mature Business
研究代表者　清水　さゆり（SHIMIZU　SAYURI）
高崎経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：70445873

研究成果の概要（和文）：

日本の中堅・中小企業の競争優位の源泉を追求し、その成長モデルを探求することが本研究課題の目的である。
結論としては、海外進出を企業存続、成長のための方途としている中堅・中小企業が存在し、現時点で海外進出を成功させている中堅・中小企業においては、経営者の海外進出における明確な意図、海外子会社による積極的な販路開拓と技術獲得が行われていること，
信頼できるパートナーが存在していることが分かった。

研究成果の概要（英文）：

The purpose of this study is to inquire of competitive advantage and explore the growth model of Japanese small and medium-sized companies.
The conclusion of this study is as follows. Some small and medium-sized companies invested abroad to survive and grow. To get good performance abroad, those companies have some features; (1) a clear intention for going abroad, (2) to seek new customers abroad by subsidiaries themselves, (3) to develop technology and skills abroad by subsidiaries themselves, and (4) to have trustworthy partners.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2011 年度	900,000	270,000	1,170,000
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総　計	3,000,000	900,000	3,900,000

研究分野：経営学
科研費の分科・細目：経営学
キーワード：グローバル化、国際経営、中堅・中小企業、成長戦略、脱成熟

１．研究開始当初の背景

日本国内市場および日本経済の成熟化が進んでいる。それにともない、脱成熟化

あるいは企業が存続し成長するための戦略とは何かという課題に対する関心がますます高まっている。

企業の成長、グローバル化や国際的な競争力に関する既存研究は数多く蓄積されてきているが、その多くは、大規模製造業を分析対象としている。しかしながら、中堅・中小企業を対象とする研究においては、グローバルな競争力や事業展開という視点での研究は比較的限られている。中堅・中小企業のグローバル化研究は、工場レベルのマネジメントに関する分析が中心であったり、グローバル化のプロセスを分析しているものが多く、競争優位の源泉にまで言及しているものは比較的限られている。

他方で、現象的には、輸出だけでなく、海外直接投資を通じた、中堅・中小企業の海外展開も漸増傾向にあり、すでに一定程度以上のグローバル化の経験を蓄積している企業も存在する。また、海外展開することが国内雇用に寄与しているというデータも存在する。そうした実態を背景に、企業の規模ではなく、質の面から中堅・中小企業をとらえようとする研究や創造的な中堅・中小企業を分析対象とする研究も中には存在するが、それは比較的限られている。

そこで、日本の中堅・中小企業がどのような競争優位を獲得しているのか、どのような成長戦略のもとに事業を展開しているのかを解明することは有用であると考えられる。

２．研究の目的

研究代表者はこれまでに、日本の中堅・中小企業の競争優位の源泉を解明しようとしてきた。そのうえで、本研究課題の第一番目の目的は、中堅・中小企業の成長戦略のモデル化をはかることである。

中堅・中小企業は、大企業と比して、ヒト、モノ、カネ等の経営資源が限られている。そうした前提条件のもとで、事業の存続、成長を追求しなくてはならない。

すなわち、既存の大企業をベースに進められてきた成長モデルに関する研究蓄積を、中堅・中小企業の国際化と国際化を通じた成長戦略にそのまま適用することは難しいと考えられる。そこで、本研究課題においては、関連する既存研究をレビューすることで分析枠組みを検討したうえで、日本の中堅・中小企業の成長モデルを検討する。

３．研究の方法

本研究課題は、国際経営分野、競争力研究分野、中堅・中小企業研究分野等の幅広い分野に関連があるため、広範な既存研究の渉猟が必要である。既存研究をレビューしたうえで、本研究課題のための分析枠組みを構築する。それをもとに、聞き取り調査を中心とした実態の把握と分析を通じて、本研究課題の解明をはかる。

聞き取り調査は、主に日本の中堅・中小企業と関連する外部組織を対象とした。というのは、分析対象である中堅・中小企業は、経営資源の制約が所与であると想定されるため、自社の経営資源のみならず外部資源を柔軟に活用することが、事業存続・成長のための重要な要素であると考えられるからである。

聞き取り調査で得た１次データを既存研究のレビューから得た分析枠組みに照らして分析する。さらに、複数回におよび

聞き取り調査によって、分析結果の信頼性と一般性を確認する。

４．研究成果

（１） 本研究課題は当初、中堅・中小企業の中でも筆記具メーカーに焦点を当てて聞き取り調査および分析を行った。日本の筆記具メーカーは世界的にも品質の面等で競争力はあるとされている。筆記具業界に関する学術的研究は限られているため、日本の筆記具メーカーや世界トップシェアのペン先メーカー等に対する聞き取り調査を中心に事例研究を行った。その結果、①蓄積（コア）技術の活用、②創発的な姿勢：顧客とのコミュニケーション、③明確なドメイン設定、④ポジティブな企業風土、などが企業存続および成長に有意な影響を与えているということが分かった。しかも、これらの４つの要因が複雑に絡み合っていることが、他社が模倣できない競争優位になり得ている理由であると考えられる。

（２） （１）を踏まえより一般性の高い分析結果を得るため、業界の異なる中堅･中小企業への聞き取り調査と分析、当該中堅・中小企業と関わりのある外部組織への聞き取り調査および分析を行った。

その結果、中小企業の経営目標は必ずしもシェア拡大や利益率の向上ではなく、事業を継続すること、企業を存続させることであり、それを所与として事業戦略が策定、実行されていると考えられる。また、大企業と比して、経営者の意図が企業経営により大きな影響を与えるというとされている。このような前提のもと、

①より積極的かつポジティブな意図をもった海外進出と、

経営者もしくは現地責任者の権限と責任に基づいた、同時に、日本の親会社からの資金および技術的支援に依存するだけではなく、

②進出先の現地市場における積極的な販路の開拓と、

③海外子会社による技術および技能の獲得

が求められることがわかった。

しかも、海外進出に付随するリスクや経営資源の制約に対処するためには、行政の支援策を活用したり、海外市場において信頼できるパートナーをもつなどの、

④外部資源を柔軟に活用すること

が必要であることも分かった。

ただし、この分析結果は、調査対象企業によって規定されることが予測される。というのも、今回対象とした企業は、自社開発の独自製品をもつ企業という特徴をもっているためである。

（３） 本研究による成果を踏まえて、分析結果の一般化と精緻化を追求するためには、業界による分類、開発型企業か否かによる分類等の条件を設定したうえでの成長モデルを解明する必要がある。

本研究の成果に関しては、雑誌論文等に投稿する予定である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

① 清水さゆり「中堅企業の企業成長・存続と経営的特性―テイボーの事例」『産業経営』４６・４７　２０１０年　３５－５３頁（査読有）

〔学会発表〕（計４件）

① 清水さゆり・里見泰啓（共同報告）「中小企業技術者の気概―漸進的イノベーションを続けるファミリービジネス―」ビューティビジネス学会第１回全国大会（２０１２年7月１１日）ハリウッド大学院大学
② 清水さゆり「中小企業の国際展開―大田区企業の事例―」日本貿易学会第５２回全国大会（２０１２年5月１９日）城西大学
③ 清水さゆり「筆記具メーカーの成長戦略と競争優位 ―グローバル戦略の進化―」国際ビジネス研究学会第１７回全国大会（２０１０年１０月２４日）北海道大学
④ 清水さゆり「筆記具メーカーの多角化戦略」戦略研究学会第８回大会（２０１０年４月２４日）国士舘大学

〔図書〕（計３件）

① 清水さゆり「テレビの時代」（共訳）江夏健一・山中祥弘監訳（２０１１）『ビューティビジネス―「美」のイメージが市場をつくる』中央経済社．１８２－２０４ページ、２０９－２１２ページ（総４４１ページ）
（Jones, G. (2010) Beauty Imagined: A History of the Global Beauty Industry, Oxford University Press.）
② 清水さゆり「多国籍企業のマネジメントとソーシャル・キャピタル」（共著）高崎経済大学附属産業研究所（編）（２０１１）『ソーシャル・キャピタル論の探究』日本経済評論社．１９３－２１３ページ（総２５９ページ）
③ 清水さゆり「グローバリズムとニュー・リージョナリズム」「外資系企業の参入に対する政府規制：１５カ国の調査研究」（共訳）江夏健一・大田正孝・桑名義晴監訳（２０１０）『ラグマン教授の国際ビジネス必読文献５０撰』中央経済社．１１６－１１７ページ、１５５－１５６ページ（総２１６ページ）
（Rugman, A. (2009) Rugman Reviews International Business, Palgrave Macmillan）

６．研究組織

(1)研究代表者
清水　さゆり（SHIMIZU　SAYURI）
高崎経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：70445873

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし